

バローに女子剣道部

可児の漱玉館拠点、4月創部へ準備



女子剣道部の創部に意欲を見せる田代正美会長兼CEOと竹村奈緒美さん＝多治見市大針町、バローホールディングス本部

漱玉館は床材に厚さ4・5センチの秋田杉を使い、高さ約90センチのかめ10個を床下に埋め込むなどした本格的な道場で、昨年9月に同HD

人材開発センターの隣に建設した。剣道家からの評判が高い道場を整備し、「チームがあった方がやりがいがある」という田代会長の

地域貢献活動 子どもらに稽古検討

バローホールディングス(HD)が、来年4月の女子剣道部の創部に向けて準備を進めている。実業団の全国大会で活躍を目指すとともに、活動拠点となる伊藤青少年育成奨学会の武道場「漱玉館」(可児市)を活用し、子どもから高齢者までを対象にした稽古の開催といった地域貢献活動も検討している。同HDの田代正美会長兼CEO(75)と、6段の実力を持つ中心選手の竹村奈緒美さん(32)が27日、取材に応じ「5年以内に全国制覇したい」と意気込みを語った。(山本貴史)

65歳から剣道を始め、4段の実力になった田代会長は「面、胴、小手、突き」の四つの技しかないのに、分かっているだけでも打たれてしまう。単純なほど奥が深く、熟成された武道だ」と剣道の魅力を訴える。子どもたちへの稽古、指導者育成に加え、生涯スポーツとして高齢で始める人らのために

考えから、実業団の構想が生まれ、全日本女子剣道選手権大会で準優勝経験がある竹村さんを迎え入れた。4月の創部時点では竹村さんのほか、来春入社の新入を含め20〜30代のバローグループ社員計4人が選手として活動する予定。今は部長、監督など組織体制の調整を進めている。

も道場を活用する考えだ。竹村さんは「仕事と剣道の両方に一生懸命取り組み仲間と、素晴らしい道場で練習できる。5年以内に日本一を目指したい」と意気込みを語る。